

林業普及週間現地情報(7/2～7/6)

森林管理課

苗畑巡回指導（国頭村森林組合）

7月4日（水）

平成30年7月4日に、森林整備（造林）用苗の生産状況について、国頭村字比地の国頭村森林組合苗畑で担当者から生産状況の聞き取りを行った。

当日は雨天で作業はしていなかったが、平成31年度出荷用のイジュの幼苗2万本を畑に移植中で、8千本移植したところであった。

担当者の話では、主な造林樹種は2年で出荷できるようなので、近年の造林用苗木の不足は生産者と造林事業者間で2カ年の需給調整をうことと、その調整に基づき計画的に造林を実行することで解消すると生産現場を見て感じた。

ただし、計画的に実行されないと苗木は売れない在庫となるだけで、生産者は不採算経営に陥り、生産意欲もなくなる。

今後の需給調整は、より具体的な計画に基づくものとなるよう造林担当と協力して造林事業者の造林計画作成に関わり、生産者が計画的生産が行えるよう支援していきたい。



イジュ幼苗



移植（概ね10×10cm間隔）



イジュ移植苗畑全景

主な生産樹種

樹種	H30出荷分	H31出荷分
イジュ	4,000	20,000
タブ	800	4,000
ホルトノキ	12,000	0
ウラジロエノキ	4,000	0

ウラジロエノキの双葉→



（報告者：北部農林水産振興センター 比嘉、黒木、大城）